

地元の生態系保全考える 東仲ノ町 活動報告やパネル討論

ミドリガメ対策をめぐり
意見交換したパネル討論
市生涯学習センター



明石市の生態系保全

を考える「あかしいきものフォーラム」がこのほど、市生涯学習センター(東仲ノ町)で開かれた。外来種のミシシピアカミミガメ(ミドリガメ)の繁殖抑制に取り組む市がこれまでの活動を報告。専門家や市民によるパネル討論もあり、約120人が聴き入った。

市などが主催。市のミドリガメ対策アドバイザーを務める亀崎直樹・岡山理科大学教授の講演後、市の職員が、ミドリガメを駆除したため池でハスが復活した(こと)などをスライドを使って紹介した。パネル討論には、亀崎さんや環境省で外来種の対策に当たる森川政人さん、市内で環境保護に取り組む「エコウイングあかし」会長の川島幸夫さんら6人が登壇。「環境学習や体験を通じ、子どもたちに本来の生態系について教えることが大切だ」など意見交換をした。

来場者からは「市が実施しているミドリガメの引き取り事業を、子どもも含めて幅広く発信すべきだ」との提言も出された。

(藤原昇平)